

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年 1月 27日

事業所名：アニマートかわにし

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	ブレイルーム(勉強コーナー含む)と別に運動室を開設し、勉強中の児童が集中できる。又十分に運動できるスペースを確保している	ほとんどの保護者が十分と答えており、分からないと答えた人は、スペース拡張工事(2018.4～)以降来所していない事が多い	昨年の課題であった収納の改善は進んでいる。レベル別にグループ分けて活動ができた。勉強の妨げにならないよう活動出来ている。より集中できるようロールアップカーテンなど使用
	2 職員の適切な配置	あと1～2名必要	どちらともいえないと答えた人の中でスタッフの人数が少ないという意見が2名あり。資格や専門性が分からないとの意見が1名あり、ホームページ等で資格の公表を希望されている	現在ホームページを活用できていないためブログに公表する。室内には掲示済み。スタッフの補充は急務であり、引き続きメディアを使って募集する
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	身体障害の児童がいないためバリアフリー面は支障がないスケジュールの提示やチャイム等を利用し、時間の意識付けを行っている	はい・・・15名 分からない・・・3名 どちらともいえない・・・3名 懇談会等で中の様子を把握していただいている	引き続き、利用者の特性に合わせて常に環境を見直し分かりやすくしていく。子どもの動線を考え配置を変える予定
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	物の整理・整頓、毎日の掃除、消毒により清潔で活動しやすい空間となるよう、又カーペットなど必要に応じて使用し過ごしやすいよう工夫している	運動と勉強スペースが別になっている点への高評価が多い 雰囲気が出るのいいとの意見もあり	今後もその日の利用者に合わせておもちゃの数、種類を調整し、落ち着けるようにする
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	去年度よりミーティングの回数は増える。案は出し合うが、検証し再構築していくのが遅れがちである		12月より全スタッフが午前中からの勤務が可能となったため、今までよりさらにミーティングを通して話し合う機会が増えている。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	できていない		第三者評価委員会の設置について上司に改善を要求する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	内部研修の実施、外部研修への参加を行い、行けていないスタッフに伝達研修をしている		上部からの許可が下りれば研修費用を出してもらえる事となったため、相談し外部研修を受ける機会を増やし資質向上を目指す
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもと保護者のニーズが食い違っている場合が多くあり、保護者優先の計画になっている可能性がある		相談員さんとのモニタリング、学校との連携を通じてさらにニーズの把握に努める
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	毎月、子どもの現状に応じた支援内容となるよう月の計画を立てる時点で見直しを行っている	「適切である」と答えた人が18名 「どちらともいえない」と答えた人が項目によって3名ほど 新入の2名は「わからない」と回答 概ね適切と評価していただいている	引き続きアセスメントを正確に行い、個別の課題にあった支援計画をしていく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	半年ごとに見直し、スタッフ会議にて全員の意見をまとめ作成している		他事業所や相談支援事業所との連携が少しずつ出来ているが、さらにすすめていく
適切な支援の提供 t (続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	児童発達支援管理責任者が日々の支援に入り、計画に沿った支援が行えるようにしている。支援終了後、その日の振り返りを行いスタッフ間で共有する	はい・・・18名 分からない・・・2名 どちらともいえない・・・1名	分からないと答えた2名の新しい保護者にも支援内容を伝えていく ミーティングの回数を増やし、より計画に沿った支援内容にしていく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	一カ月の大まかなプログラムは管理者、児童発達支援管理責任者で立案し、スタッフの意見を交えて決定する。動・静のプログラムを偏りなく、あきることなく出来るよう内容を工夫している		今後も活動内容を工夫しながら遊び、活動の中で社会生活に必要な能力が身につけられるようにしていく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は下校時間や利用者により内容を考え必要な支援をおこなっている。休日(祝日)は休暇時にしかできない体験ができるようにしている。	9割以上の保護者からプログラムについてよい評価をいただいている 「わからない」と答えた2名利用開始したばかりであり、今後理解して頂けるようアプローチしていきたい	休日、休暇の活動に「畑作業」を増やし、体づくり、自然や食への関心をさらに強めていく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	一カ月の予定を立てる時に活動が偏らないよう、又新しい活動に取り組めるよう工夫している		分からないと答えたうちの1名は他児と同じプログラムに参加が困難であり、別プログラムになっているが、その内容を保護者にきちんと伝えられていなかった為今後伝えていく
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日全スタッフが朝からの出勤となり話し合える事が増えているため、情報共有し確認している		引き続き行う
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、送迎から戻ったスタッフも含め全員で毎日行っている車の中での様子も共有している		引き続き行う
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	その日のうちに担当した職員が記録し、スタッフ間でも話し合いを行っている		記録の書き方については気づいたスタッフ同士、注意しあったり、管理者・児発管がそれぞれの立場で点検、追加記入していく
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一回又は必要に応じてモニタリングを行っている		保護者の方と話し合いながらより具体的に達成できる到達目標を設定していく	
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	サービス担当者会議は行われておらず、相談支援事業所とは毎月モニタリングし、話し合う		サービス担当者会議が行われるかどうかを確認し、行われる場合参加させてもらうよう依頼する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当者なし		該当者なし
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当者なし		該当者なし
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	相談支援員や保護者を介して情報を得ている		今後、児童発達支援事業所から移行してくる場合は、事前に支援内容について情報を共有できるように努める
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	卒業した生徒について、受け入れた就労支援事業所から見学に来られ情報共有を行った		今後卒業者がいる場合、保護者からの同意を得て情報提供したい
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関との連携は出来ていない 研修はできるだけ受講するようにしている		相談支援事業所からの情報を得ながら専門機関との連携を模索していく
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	ほとんどの子が地域の学校に通っており、デイに来る日以外は友達と遊んだり、習い事をしているのであまり必要ないと考えている	はい…7名 いいえ…5名 どちらともいえない…1名 わからない…7名 回答無し…1名	個々の子どもが障害のない子どもと活動する機会をもっているか確認し、必要であれば取り組む
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	近隣の住民・店舗との交流は大切に、イベントに協力してもらったり、畑で収穫したものを届けて活動に理解が得られるようになっていく。又、地域清掃を定期的に行っている		今後とも交流を続けひろげていく
	保護者への説明・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に行っている 支援内容を2020年1月より個々に写真で伝えるようにしている	はい…19名 いいえ…1名 どちらともいえない…1名「支援の内容を丁寧に教えて頂きいつも嬉しく思っている」と記入あり
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		半年又は一カ月ごとの見直し時には丁寧な説明を心がけている	はい…16名 いいえ…2名 どちらともいえない…3名	サービス計画を分かりやすく保護者に説明していく
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		十分には出来ていないが、相談を受けたり、送迎時の話の中で望ましい対応について話をしている	はい…7名 いいえ…4名 どちらともいえない…2名 わからない…8名	新しい保護者も増え、よりわかりやすく特性をふまえた対応等について伝えていくようにする。懇談会で専門家の話を聞く機会を持つよう計画
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		送迎時に話したり、電話をして様子を伝えながら課題についても共通理解ができるようにしている 未だ全員には実施出来ていないが、SM社会生活能力検査を実施、課題を明確にしている	はい…18名 わからない…1名 どちらともいえない…2名	SM社会生活能力検査を活用し、保護者と共通理解ができるようにしていく
5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		いつでも相談してもらえるようコミュニケーションを日頃からとっている 子供がいない午前中に来てもらい、ゆっくり話を聞くようにしている	はい…13名 いいえ…2名 どちらともいえない…2名わからない…4名 「いつも話が出来るので改めて相談や面談の場は必要ない」という意見あり	どの保護者にも相談に来てもらえる事業所であるよう、常にコミュニケーションがとれるようにする
6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		保護者会は1年に2回、事業所主催で行っている 夏祭りには親子で参加、食事ができるようにし、交流をはかった	はい…15名 分からない…5名 どちらともいえない…1名 保護者会がひらかれて嬉しいとの意見は1名	保護者会以降に利用開始した保護者から分からないという回答あり 保護者会の参加者が少ないので関心を持ってもらえるよう工夫していく
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		今年度は苦情無し 職員で対応できる事は職員間で周知対応すると同時に、相談支援事業所に相談・報告している	はい…11名 わからない…8名 どちらともいえない…2名	今後、苦情や要望を言いやすいように工夫する必要がある
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		理解しにくい忘れられると思われる保護者の方には連絡帳や手紙を書いて渡したうえで、電話やメールを活用	はい…18名 どちらともいえない…1名 分からない…2名 「いつもたくさんの子どもの様子を教えてもらい嬉しい」との意見あり	連絡帳に活動写真を貼ったり、動画を見せながら伝える工夫をしている
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		不定期ではあるが通信を発行 行事、毎日のプログラムは前月中旬に(場合によっては早めに)保護者へ知らせている	はい…17名 分からない…4名	分からないと答えたのは新しく利用した保護者の方であり、今後理解していただけるようにする
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応		個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管 不要になった情報はシュレッダーにかけるなど秘密保持の徹底を行っている	はい…18名 分からない…3名	今後も継続して行う
関係機関との連携	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	その都度必要な事は通信等で発信しているが周知徹底できていない	はい…7名 いいえ…2名 どちらともいえない…4名 分からない…8名	分からないという意見が多いので、通信に加えて次回懇談会で説明する予定
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回、避難訓練、地震を想定した訓練を実施	はい…9名 いいえ…1名 どちらともいえない…2名 分からない…9名	訓練を行っている事が伝わっていない事も多いため、事前の予定の知らせ、事後の様子報告など徹底する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	社内研修を実施		今後も継続して行う 職員に注意の仕方など虐待にならないようその都度適切な対応を指導する
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	1.切迫性 2.非代替性 3.一時性の3要件を満たす場合にのみ拘束の可能性があることを該当する児童の保護者に説明し、同意を得ている		同意はもらっている児童はいるが、拘束しなければいけない可能性がほとんどない為計画には記載しておらず、今後必要に応じて対応していく
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当している子どもは現在のところいない 契約時やアセスメント、モニタリングで保護者の方から聞き、確認している		今後食物アレルギーのある児童が利用する際は、保護者に依頼し医師の指示書をいただき対応する
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	支援の終わりにヒヤリハットがなかったかスタッフ間で話し合い、その都度記入するようにしている		今後も継続して行う